

FSB市中協議文書「マネー・マーケット・ファンド（MMF）※¹の強靱性向上のための政策提案」について

- FSBは、2020年11月に「2020年3月の市場の混乱についての包括的レビュー(Holistic Review)」を公表。これを受け、MMFに関し、短期金融市場の構造も含め、その強靱性を向上させるための様々なオプションが議論された。
- 2021年6月30日に公表された市中協議文書は、MMFの形態・機能・役割や、2020年3月の混乱等を踏まえたMMFの脆弱性、MMFの強靱性を向上させる政策オプションとその評価、リスクのモニタリングや短期金融市場に関する補足的措置、及び、政策オプションを選択する際に考慮する事項等を記載。これらについて広く意見が求められている。意見募集期限は同年8月16日。

提示されている政策オプション

代表的オプション	強靱性向上のメカニズム	主たる目的	従たる目的	拡張／派生オプション
スウィングプライシング	償還を行う投資家に、そのコストを負担させる	金融安定を損なう償還行動の可能性の低減	大規模償還の影響緩和	当局による、マクロプルーデンスの見地からのスウィングプライシング
Minimum balance at risk (MBR)	損失吸収	金融安定を損なう償還行動の可能性の低減		
資本バッファー	損失吸収	金融安定を損なう償還行動の可能性の低減	大規模償還の影響緩和	スポンサーサポート、流動性提供銀行
規制上の閾値と償還手数料やゲート発動との関係解消	閾値効果※ ² の減少	金融安定を損なう償還行動の可能性の低減	大規模償還の影響緩和	当局による償還手数料やゲート発動の認可、MMF投資家の集中制限、カウンターシクリカルな流動性バッファー
固定NAVの排除	閾値効果の減少	金融安定を損なう償還行動の可能性の低減		
適格資産の限定	流動性変換の減少	大規模償還の影響緩和		MMFを政府系債務に投資するものに限定、現物償還の実施、日々取引の排除、保有流動性に基づいた償還の繰延べ
新たな流動性要件やエスカレーションプロセス※ ³	流動性変換の減少	大規模償還の影響緩和	金融安定を損なう償還行動の可能性の低減	

※¹ 元本の安定、日々の流動性、リスクの分散及びマネーマーケットの実勢金利に沿った収益を目指して運用されるオープンエンド型投資ファンドをいう

※² 規制上の閾値を超えることによる帰結を回避するための投資家の予防的な償還行動を惹起する効果

※³ 2週間で現金化可能な流動性要求の導入や、閾値超過時に強度の強くない措置から実施していくという提案